

「宜野湾市立幼稚園・保育所の認定こども園移行等に関する基本計画（素案）」について意見募集を行い、市民の皆様から貴重な意見をお寄せいただきました。提出いただいたご意見について、市の考え（回答）と一緒に公表いたします。

【案件】「宜野湾市立幼稚園・保育所の認定こども園移行等に関する基本計画（素案）」について

【期間】 令和6年1月12日（金）～ 令和6年2月5日（月） [25日間]

【方法】 オンライン、窓口、郵送、FAX、電子メール

【意見】 11件（オンライン9件、紙2件）

| No | 回答方法 | 宜野湾市との関わり | 子ども・子育てとの関わり | 該当箇所(タイトル等) | 意見等 | 回答（市の考え方） |
|----|-------|-----------|----------------------|-------------|---|---|
| 1 | オンライン | 在住 | 子育て中の保護者 | 第1章 | <p>家庭保育で同年代の子ども達と関わる機会が少ない子もたくさんいます。ずっと幼稚園での3年保育を希望していたので、子ども園に移行する事で3年保育が実現するのはとても嬉しい事です。</p> <p>就学前に給食の経験ができる事もとてもいい事だと思います。</p> <p>子ども達にとって負担や不安がないようにという事は気をつけていただいて、子ども園に移行を賛成します。</p> | <p>幼児期は、生涯にわたる人格形成の基礎を培う大切な時期です。子ども達の発達や学びの連続性を確保するため、3歳児の受け入れを目的のひとつとしました。保護者の就労形態等に関わらず子どもが通うことができ、また子育て家庭が求める環境整備も含め教育と保育が一体化した認定こども園への移行をこれから取り組んでまいります。</p> |
| 2 | オンライン | 在住 | 子育て中の保護者 子育て事業従事者 | 第2章 | <p>人手不足、となっていますが、必要な人材が確保できれば難しい(土曜日保育等)課題が多いと思います。あくまで実施予定？必ず実施？人材が確保できなくてもいる先生たちで対応させる？先生たちは大変じゃないですか？人材確保と、それができる経験者。安全確保のため。それは考えてますか？</p> | <p>幼保連携型認定こども園では、11時間の開園と土曜日の開園が原則となります。子育て家庭が求める施設運営に変わるためには、サービス拡充に加え、子ども達を安心安全に保育するための人員配置が必要となります。</p> <p>今回の計画は幼稚園で働く職員の処遇を改善することも目的の一つであり、公立園は職員を集約し、配置人員を手厚くして一人一人の負担を軽減していきます。公私連携園については、法人を選定するにあたり保育教諭など人員を十分に確保していることを条件とし、現場の先生たちに負担のかからない充実した職場環境で運営を行っていただきます。</p> <p>また、公立園においては現場職員が混乱しないように事前に人事交流を行いながら、職員が教育と保育をお互い携わり、しっかりと移行に向けた準備を行ってまいります。</p> |
| 3 | オンライン | 在住 | 子育て中の保護者 子育て事業従事者 | 第2章 | <p>小学校と同じように学校給食、給食センターからの。なぜできないの？</p> | <p>本計画を検討するにあたり、公立園での学校給食提供については所管する担当部署も含め議論を行いました。しかし、現状の給食センターの規模では供給が難しいことから、学校給食の提供は行わないことといたしました。</p> <p>民間委託においても学校給食同様、衛生管理、栄養管理等を徹底したうえで、安全・安心な給食を提供できるよう、市の責務で優れた給食提供業者を選定してまいります。</p> |

| No | 回答方法 | 宜野湾市との関わり | 子ども・子育てとの関わり | 該当箇所(タイトル等) | 意見等 | 回答(市の考え方) |
|----|-------|-----------|--------------|-------------|---|---|
| 4 | オンライン | 在住 | 子育て中の保護者 | 第2章 | <p>2人の未就学児を育てる親です。</p> <p>上の子はずっと待機児童で、仕事復帰したくても保育園に入れないため、それもできずにいました。下の子は保育園が決まり上の子もやっと2次審査で保育園に通行けると思っていたのに、面談で言葉の発達の遅れがあった為か、入園を望まないような園長先生の言葉に保護者として悲しい思いをしました。子供の発達にはかなりばらつきがあること、保育園に入っているかいないかにもよって発達にも差は出てくると思います。まだ2歳と発達障害なのか判断が難しい年齢なのに、そういう園児でも受け入れる体制を保育園やこども園を作ってほしい。保育士の資格を持つてないにもかかわらず、ある程度研修や勉強を受けたら、無資格でも働ける制度とかで職員の数の増員を増やすことはできないのでしょうか？</p> <p>今の時代、両親で働かないと生活は厳しい状況です。保育園等の預け時間によってどちらかが仕事の量を調整したりしなければならない状況でもあります。宜野湾市だけでも、働く保護者に優しい社会作りに取り組んでほしい。子供を育てる親が住みやすい町にして欲しい。認定こども園になるのは構わないです。ですが働いている親にもっと便利な仕組みをどんどん取り入れてほしい。預け時間、給食提供、発達が気になる子供の受入れ、母親、父親の子育てが「孤独な子育て」にならないような街作りをして欲しい。子供を育てるということは、本当に大変で、ストレスを与えるものなんです。周りに相談できないだけで多くの人が悩んでいるんです。女性の意見、母親の意見、父親の意見、保育士等の様々な人の意見を聞いてください。</p> <p>何が大変なのか?何が辛いのか?子育てをしている方の本音を聞いてください。</p> <p>旦那は手伝ってるとか言うけれど、「手伝う」じゃなくて「一緒にやる事」なんです。母親だけが負担してることがどれだけ多いか...</p> <p>これが発達障害を持つてる子供がいる家庭だとさらに負担が増える。年齢が低ければ低いほど、親は大変なんです。</p> <p>保育園やこども園が親の負担を減らす場所であって欲しい。親だけで育てるのではなく、保育園、こども園などみんなで子育てをする地域であって欲しい。</p> <p>小学校の様に親が望めば誰でも通える保育園、こども園であって欲しい。今の制度ではまだまだ子育てしやすい宜野湾市ではない。</p> <p>子供は可愛いけれど、正直子育ては大変で子供なんか産まなきゃ良かったことも何度もあった。死んだら楽になれるのにと思ったこともあった。結婚せずずっと1人のほうが良かったと思うこともあった。今でも時々そんな気持ちになるのは、様々な大変なことがあって相談できず1人で抱えているから。それくらい子育ては苦しく大変なもの。会社に例えるなら、出勤365日休みなし、24時間仕事、報酬なし、そんな仕事だ。そんな中頑張ってる人達がいるのに、社会は何かと子供連れには厳しい世の中だと思う。</p> <p>今よりもっと子育てしやすい町になることが何よりも望みです。</p> <p>もっと市民が意見する場所を作ってほしい。意見する機会を与えてほしい。そしてそれを実行して欲しい。お願いします。</p> | <p>待機児童の解消や、多様な保育ニーズへの対応は市の喫緊の課題でもあり、その要因の一つとして保育士不足があります。保育の質を維持するためには、保育士の配置は絶対に必要です。しかし、その人員を確保するためには処遇の改善が必要で、保育士の資格を持った方が働きやすく魅力を感じる保育施設を展開することが市の責務となります。</p> <p>今回の基本計画もその一つで、公立園を集約し人員を増やすことで市職員の処遇改善を図り教育・保育の質の向上を目指します。民営化する園の運営法人については、保育教諭を十分確保できていることも条件とした選定を行う予定です。</p> <p>市立幼稚園が子育て家庭の求める施設に変わること、3歳～5歳のこどもたちが通う施設の選択肢が増え、既存の私立認可保育園等にも余裕が出ることが想定され、受入れ児童の幅が広がることが期待できます。</p> <p>今後は国の方針でもある、全てのこどもの育ちを応援し、全ての子育て家庭に対する支援の強化に努めるための施策を本市としても取り組んでまいります。</p> |

| No | 回答方法 | 宜野湾市との関わり | 子ども・子育てとの関わり | 該当箇所(タイトル等) | 意見等 | 回答(市の考え方) |
|----|-------|-----------|----------------------|-------------|---|--|
| 5 | オンライン | 在学・在勤・活動 | 子育て中の保護者 子育て事業従事者 | 第2章 | <p>○0～2歳の待機児童数が1300名余りあり、現在の保育施設数でもまかなえていない現状があるのに、公立保育所を閉鎖し、受け入れ枠を現在以上に減らすと言うことは、0～2歳の待機児童数が増加することが容易に想定されるが、どのようにお考えか。(小規模保育所を増やす、現在ある認可園の規模拡大など、現段階で見えている受け入れの見直しを、具体的にご教示いただきたい。)</p> <p>○支援児が増えている現状、宜野湾市内の0～2歳の特別支援児数と支援の程度(1対1なのか3対1なのか)、それに対する加配保育士の配置数はいかがなものか。</p> <p>○公立保育所と認可保育園の支援児数を、具体的に示していただきたい。</p> <p>○保育士数は数年前と比べて、どのように変化しているのか。特別支援児数が増えていることが保育士不足の大きな要因となっているのではないか。現状を提示していただきたい。</p> <p>○発達面において気になる子、いわゆるグレーゾーンの児童数は市内の0～6歳にどのくらいいるのか。また、グレーゾーン園児に加配保育士がついている現状はあるのか、しているとすれば公立保育所か認可保育園か。</p> <p>○市の財政が厳しいことは重々承知しているが、保育・幼児教育を軽視する自治体には、魅力が感じられず若者や子育て世代が集まらないことにつながり、ひいては市の税収が減ることにはならないか。若者に魅力ある自治体を目指す方が若い世代が集まり、将来的に有望なのではないか。保育所の建て替えを行う方が有益ではないのか。</p> <p>○建て替え費用の負担を減らしたいのであれば、大型保育所ではなく中型もしくは小型保育所へ縮小し、建物も現在のように大きく豪華で無駄なスペースをなくし、安全面に留意した簡素な建物にするという案は考慮されたのか。</p> <p>○うなばら保育所の空調設備老朽化問題が取り沙汰されているが、空調リースの利用など対応策はないのか。</p> <p>○今回の認定子ども園への移行は、そもそも幼稚園の慢性的な幼稚園教諭不足・園児数の減少と、保育所の建て替え問題を合理的にまとめたように見受けられる。保育所の機能をそのまま移行し、0～5歳児までの保育が可能であればまだ理解出来るが、待機児童数問題を置き去りにした今回の移行計画は無茶なのではないか。余計に混乱を招く物ではないか。</p> | <p>・本市の令和5年度の待機児童数は32名(4/1時点)で、0～2歳児については31名です。0～2歳児の特定園希望者など潜在的待機児童数については、約200名近くいる状況です。認可保育園等には、ニーズのある年齢枠を増やす協力なども呼びかけており、今後は西普天間地区の保育所整備や、地域ニーズを踏まえた新規の保育所整備も検討しています。</p> <p>・本市の認可保育施設(公立含む)における特別支援保育児童数につきましては、市全体でR3:131名、R4:142名、R5:162名と年々増加傾向にありますが、そのうち、0～2歳の児童数は各年度10名未満で推移しております。R5年度につきましては、1対1の1歳児が1名、1対1の2歳児が2名、3対1の2歳児が5名となっており、それぞれの受入施設において、適正な加配保育士が配置されている状況でございます。</p> <p>・R5年度の特別支援保育児童数162名のうち、公立保育所2園で18名、民間の認可保育施設30園で144名(1園あたり4.8名)の受入れを行っている状況でございます。</p> <p>・沖縄県の保育士登録数(4/1時点)はR3 26,484人、R4 27,513人、R5 28,626人となっていて、保育士数自体は増加しています。一方、保育施設に働く保育士は離職者も含め、なかなか定着しない現状があります。人員を確保するためには処遇の改善が必要で、保育士の資格を持った方が働きやすく魅力を感じる保育施設を展開することが市の責務であり、今後も保育士確保・処遇改善のための支援に取り組んでまいります。</p> <p>・R5年度の特別支援保育児童数162名のうち、何らかの診断がついている児童が48名となっており、残りの114名(約7割)につきましては、発達面などにおいて特別な配慮を必要とする児童となっております。本市では診断の有無に関わらず、特別な支援を必要とする児童の受入施設に対して、加配保育士を配置するための補助金制度を設けており、市内のほとんどの認可保育施設において、特別支援保育を実施していただいている状況でございます。</p> <p>・うなばら保育所の建替えについては、これまで(令和元年～)も様々な視点で議論は行いました。その上で、本計画の内容となります。0歳からの連続性を生活丸ごと受け止めながら行ってきた公立保育所の経験や役割は非常に大切なものと承知しております。しかし、市の保育行政は公立のみで成り立っているのではなく、私立の認可保育園や認定こども園、地域型保育事業もその担い手となっています。これからも、公私一体となった子育て支援に取り組んでまいります。</p> <p>なお、うなばら保育所の空調設備につきましては、子どもたちを安全にお預かりするために、令和5年10月より空調リースを開始しておりますが、費用が割高となるリース契約を長期間継続することは難しく、また、うなばら保育所においては空調設備以外にも、壁面ブロックの落下防止対策など、緊急的な対応を必要とする箇所が多く、存続は難しいと判断した次第でございます。</p> |

| No | 回答方法 | 宜野湾市との関わり | 子ども・子育てとの関わり | 該当箇所(タイトル等) | 意見等 | 回答(市の考え方) |
|----|-------|-----------|----------------------|-------------|--|--|
| 6 | 住民説明会 | 在住 | 子育て中の保護者 | 第4章 | 私は専業主婦で子どもを保育園に入れることができなく、宜野湾市の幼稚園は4歳からなので以前からずっと3歳からの入園を希望していたので、個人的には令和7年度からの大山幼稚園のこども園移行はとて賛成です。そういう家庭も多くあると思います。家庭保育の子どもたちがもっと同年代の子と関わる施設がほしいです。 | 幼児期は、生涯にわたる人格形成の基礎を培う大切な時期です。こども達の発達や学びの連続性を確保するため、3歳児の保育拡充を目的のひとつとしました。保護者の就労形態等に関わらずこどもが通うことができる、教育と保育が一体化した認定こども園への移行をこれから取り組んでまいります。 |
| 7 | オンライン | 在住 | 子育て中の保護者 | 第4章 | 移行スケジュールについて、準備に時間がかかることは理解出来ますが、園によっては差があるのは、不平等さを感じます。保育ニーズを勘案してのスケジュールになっているのか。実施するのであれば、一斉に開始することが望ましいと思います。また給食は、子ども達へ安心安全な食事を提供すること、食育の推進のためにも大切です。出来る限り自園調理が出来るよう、施設の改修費等を予算化すべきだと考えます。 | これまで、市立幼稚園において子育てニーズへの対応が遅れてきたことについては大変申し訳なく、市として反省すべきことだと認識しております。移行スケジュールにつきましては、短期間において移行することが地域間の不平等差を無くせることは十分承知してございます。しかし、公立の認定こども園を運営するための人員が現職員数では不足しており、それを補うための民営化においては、法人がエントリーするための準備期間も必要となります。その上での移行スケジュールとなりますことをご理解願います。また給食提供について、公立園では外部搬入での提供となりますが、質の高い給食を安定して提供できるよう優れた業者の選定に努めます。公私連携園においては、運営法人等が自園調理を実施する際は、改修費の補助金等も含めた予算化について今後検討してまいります。 |
| 8 | 窓口 | 在住 | 子育て中の保護者 | 第4章 | できるだけ早く幼稚園でも給食にしてほしいです。 | |
| 9 | オンライン | 在住 | 子育て事業従事者 | 第4章 | 緊急性のある支援が必要な児童の受け皿とありますが、障害のある子のことですか？全てのこどもたちにとって拠点となる園を目指す。とても良いことだと思います。ですが、例えば、定数40人いるとします。10人支援が必要。もしくはそれ以上の希望があった場合、全て受け入れ、バランスのとれたカリキュラムができるのでしょうか？確かに『全てのこどもたち』と、いうのはいいです。でも、動きが目立つばかりが集まると、他も集中できなかつたりしませんか？すべての子の保育、というのがいい意味でも悪い意味でも弱者中心になり、普通が取り残されてませんか？どうやってバランスのとれた質の高い保育なのでしょう？スタートしてみなければわからない。それで終わりなんですか？ | 障がいをお持ちの児童を含む特別な支援を必要とする児童の受入れに関しましては、現状、私立認可保育施設においても実施していただいておりますが、医療的ケアを必要とする児童の受入れなど、民間での対応が難しいケースなどは、公立保育所や公立幼稚園において受入れを行うことがございます。基本計画の8ページにもありますように、令和5年度におきましては、公立幼稚園の在園児数415名に対し支援児が53名、約12.8%の割合となっておりますが、その児童一人ひとりに個性があり、一般の児童と分け隔てなく、お互いを尊重し、ともに活動することで、子どもたちの健やかな成長に繋がるものと考えております。 今後も特別な支援を必要とする教育・保育のニーズは高まることが予想されますが、公立園としての役割を果たすとともに、公私連携園や既存の私立認可保育施設の協力も得ながら、未来ある宜野湾市の子どもたちの成長を見守っていきたくと考えておりますので、ご理解ご協力の程よろしくお願いたします。 |
| 10 | オンライン | 在学・在勤・活動 | 子育て中の保護者 子育て事業従事者 | 第4章 | ○うなばら保育所では転園調整が行われていると伺ったが、地域の認可園の空き状況は厳しいと見受けられる。園児の転園調整はスムーズにしているのか。現状はどのようにしているのか。 ○真志喜中学校区の保育園児の受け皿状況はいかがなものか。 | ・3歳未満の児童については、希望する園に空きが無いなど、転園調整は難航しておりますが、今後、年度途中においても、希望園に空きが出た際は、優先的に転園調整を行ってまいりたいと考えております。 ・R5.4.1の真志喜中学校区の保育施設定員数(受け皿)は1422人となっており、校区内の保育施設に入所できなかった児童は130人となっております。 |
| 11 | オンライン | 在学・在勤・活動 | 子育て中の保護者 子育て事業従事者 | 第4章 | ○宜野湾市西地区に公立保育所がなくなることになるのだが、0～2歳の緊急性のある支援が必要な児童の受け入れ体制は、具体的にどの園が担っていくことになるのか。 | 緊急性のある支援が必要な児童については、公立保育所が率先して対応することは当然のことではありますが、今後は私立園とも連携し、公私一体となって早急に対応できる支援体制を構築することも必要だと考えております。その具体的な取り組みについては、これから準備・検討してまいります。 |